

自由投稿「土木行政について」

久留米支部 久留米県土整備事務所 赤司将高

はじめに

私は平成 25 年度採用 (24 災 追加採用集団) で、入庁 5 年目の主任技師でございます。1 浪して大学に進学後、大学院に 2 年間、地場の民間コンサルに 2 年間、ウロウロしながら福岡県職員になったのが 27 歳の時でした。

今回、このような機会を与えていただきましたので、大した経験もしていませんが「土木行政について」のテーマで、自由投稿させていただきたいと思います。やらしい目で見ただけであれば幸いです。

私が入庁する前に抱いていた土木行政のイメージは、土木という仕事内容に関するイメージよりも、大前提である「公務員さま～」のイメージが強かった。将来安泰、福利厚生がしっかりしていて、きちんと休みが取れる。普段の仕事はスーツではなく作業着でウロウロ。スリッパ、クロックスを多用し、打合せ等で来客があれば、名札・上着を着用し出勤。同世代である 20 代後半の私生活をイメージした場合、親から勧められたハイブリットカーをコツコツ貯めた貯金で現金一括購入。彼女からもらったポールスミスの時計をして、デートは IKEA にオシャレな家具を見に行きがち。美術館とかカフェとか、たまには気分を変えての山登りもありとか言いがち。趣味はカメラで#カメラ好きな人と繋がりたい。すでに結婚し子供がいる場合は、1BOX カーに乗り、毎週末、近所のイオンにお出かけ。入庁当時は普通の男の子（むしろ大人しいぐらい）だったはずなのに、どこで付けたか謎の自信を身に付け、若干のヤンキーテイストを醸し出そうとするも、実際はそんな人じゃないので、見ていて少しぎこちない、みたいな感じ。コンサルにいた私は、少々妬みもありつつ、馬鹿にした感じで見ていたようにも思うが、実際のところ、採用試験を突破してきた優秀な人たちという好印象も同時に持っていた。

入庁して、内側から福岡県職員というものを見るようになって一番驚いたのは、運動している人の多さだ。週に 1 回、仕事が終わって近くのグラウンドに、若手からオジサンから集まり、県内の地名がガッツリ刺繍された帽子を深々とかぶって、野球て！野球て、あーた、少年のスポーツっ！と、思った。それと、マラソン。最近太ってきたし、健康診断の結果も悪かったんで、週末たまに走ってます。のやつじゃないタイプのやつ。真夏に滝のように汗を流しながら、風通しのいい外の通路で、昼の栄養分を摂取する先輩を見て、ああこの人はヤベー奴なんだ、と思った記憶がある。後に、公務員が全てそうではない、土木職のクセが特にすごい、ということに気付くことになるのだが。。

本題である仕事の中身に関する印象。コンサルの成果品を見て、修正作業の依頼をしつつ、たまに現場で写真に写る。地元の方々に何か聞かれたら、世間話をしながら、さらっと説明する。地元の方々から苦情があった場合、よく話を聞いた上ですぐに事務所に戻る。特に忙しい様子もなく、仕事をこなす先輩を見ながらフーンこんな感じか。とっていた。

しかし、これが意外に難しい。コンサルは、それっぽい根拠を並べ、それっぽいことを言ってくる。これがベストです、これしかできません、と。まあそれがコンサルの仕事なんで。それに対して、ビシッと指摘する。黒板を持たされ、ハイチーズしながらも、確認すべきところは確認する。土木の知識がない人たちに配慮しながら説明を行う。土木以外の話にも対応するコミュニケーション能力。さらっとこなす業務の中に、多くの技を見せつけられた。

一般的に土木行政のもつ役割・目的とは何か。と問われると、本当に必要な事業を行う（限られた予算の有効活用）こと。震災や豪雨災害などの防災（防災施設などのハード面、ハザードマップなどのソフト面）に関すること。公共施設の適切な維持管理。公共施設の活用促進（親水公園などせっかく作ったのに、使わないなら無駄） などなどなど。

目指すべき土木行政の姿を挙げれば色々出てくるが、今の自分には壮大過ぎて、自分でどうこうしてやろう！というような感覚はあまり湧かない。こんなことを頭の隅に置きながら仕事をしていけばいいか〜程度の事かなと思っている。

それよりも土木行政の使命として、今の自分が強く感じるのは「土木職でないとダメ！」という部分に関するものである。「土木職でないとダメ！」な部分とは何か。コンサルタントが作った成果品を地元伝えるだけなら事務職でもいいし、積算も現場管理も外部委託すればいい。少しずつ、そんな時代になりつつある中で「土木職でないとダメ！」な部分を保っていかなければ、土木職って要る？と言われる時代が来てしまうような気がして非常に心配なのである。上にも書いたように、コンサルの提案に疑問や意見をぶつけられるだけの現場経験がない状態で、設計委託の成果品をもらうだけではあまり意味がない。本来、委託はコンサルがパーフェクトであるという想定のもと検討をお願いするものであるような気がするが。

自分がコンサルで行ってきた設計のうち、どれぐらいの割合で施工までイメージした設計ができていたのだろうか。と、最近よく思う。大抵は過去に同じような業務があって、それをベースに作業を行い、比較表に並べる工種も変わり映え無く、いつものように、あの工法。設計図面に標記する情報に関しても、実施設計の際に職員が色々手を加え、何とか工事ができる図面に修正しているという事実は、コンサル時代には全く分からなかったことである。成果品を提出した後に、そのようなことが行われていることを知らないから、次回も同じような成果品を提出するので、成長がない。修正を指示できる職員がいないと、この悪循環は解消されない。施工業者に関しても同様だと思う。設計思想を全く汲み取ろうとせず、図面に書いてある通りに施工して、無駄が生じたり、施工が出来なかつたりすることが時々ある。なぜ、このような設計図なのか、ということを担当と共有しながら工事を進めていければ、お互いに成長できるかと思う。現場と机上を結ぶ役割が土木行政なのではないかなと思う。「土木職でないとダメ！」な部分を守っていくために、今の自分が貢献できることを精一杯やっていきたいと思う。

職員の中で少し浮いている雰囲気土木職。あああの人たちね、という目で見られる土木職。そんな土木職が私は大好きだ。立派なアイデンティティだと思う。土木が土木であるために、勝ち続けなきゃならない。「土木職でないとダメ！」な部分、皆で大切に守っていきましょう。